ふくろう新聞

＜発　行＞
特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会
洲本市中川原町中川原 28 番地 1
TEL：0799-25-8550
FAX：0799-25-8551
ホームページ
http://hyoufuku.main.jp/fukurou/

経済的自由・発達の自由・意思の自由、これは、人間の自立に不可欠とされていますが、私たちの自立への社会的障壁こそが、この三つの自由の社会的・公的保障の遅れです。年々高く厚くなる社会的障壁をなくしていくための事業と運動推進への「輪」をさらに広げたいものです。

新入職員辞令交付式

淡路ふくろうの郷に入職して２か月が経ち４月１日から正職員となりました。まだまだ手話が理解できず、入居者さん、職員の方々にご迷惑をおかけしています。「ゆっくり覚えていけばいいよ」の言葉に甘えず１日も早くお役に立てるよう頑張ります。いつでも声かけしてください。そしてたくさんのことを教えてください。（看護　野田　八重子）

ふくろうの郷で働かせてもらい、５月で１年になりますが、まだまだ知識、経験不足です。職員さん、入居者さんに助けてもらうばかりの日々です。こらからも努力、笑顔を忘れずに頑張りたいと思います。よろしくお願いします。
（介護　杉浦　安桂美）

新しい風を 新入職員抱負

▲　中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンターで職員から説明を聞き「法人のいろいろな事業を目で見て理解できた」と感想

▲　入居者と交流する新入職員

私はここに来てまもなく半年になりますが、職員として入居者様と”ともに生きる”ことで普段では味わえない感覚、見方を得ることができています。また、ふくろうの郷では職員同士がほとんど手話でコミュニケーションがとれるので情報共有だけではなく悩みを共有したり相談できます。４月１日からは正職員となり、みなさんと信頼関係を築き、入居者様にも毎日楽しく過ごしやすい環境づくりを目指していきたいと考えています。（介護職員　三好菜々子）

入職し、早いもので１年を迎えようとしています。手話を生かした職に就けた喜びを日々感じながら、入居者さんと関わっています。心が枯れ果ててしまうこともありましたが、そんな時入居者さんとの会話や笑顔で元気づけられました。ふくろうの郷に入職して、改めて“手話”を思い直すことができました。手話に関心のある方、ふくろうの郷で一緒に働きませんか？きっとあたらしい自分が見つかるはずです。
（介護職員　伴　直美）

この仕事に就くにあたり、何の資格も経験もなく、手話も分からず不安でいっぱいでした。しかし、当然のようにサポートして叱咤激励していただき「一人ではなく、皆で一緒に頑張っていこう」と思えました。働きながら資格取得を目指していけるし、経験も積んでいける、職員や入居者様とコミュニケーションをとっていくうちに手話も少しずつ覚えていくことができ、自身の成長を一歩一歩感じることができ充実した日々を感じています。一人前となって今後新人さんに「何でも教えてあげるよ、任せておいて」と笑顔で言える日が来るよう頑張っていきたいと思います。（中村　茂男）

12 年間の長期入院から
念願かなってふくろうの郷へ

ふくろう物語　倉ケ崎正治様

生まれは鹿児島で、ろう学校を卒業後、京都の鉄工所で働いたこともあります。尼崎で知り合った奥様と一緒に暮らしてこられましたが、平成16年9月に交通事故で頭部等を打撲入院されました。その後転院先の病院で、お茶を投げたり、退院を余儀なくされました。退院後、奥様が自宅でお世話をするのにも困難な状況となり、また別の病院に入院となりました。ここから入院生活は12年にも及ぶことになります。

家計にも余裕がなく、奥様が面会に行けるのも月に1回程度だったようです。入院前に通っていた、たつのこ工房の職員も時々は面会に行っていました。病院の職員とは、手話で話すことはできず、意思疎通がうまくいかないことから、怒ることが度々あったそうです。しかし、月1回ほど手話通訳が派遣されて以来病状の観点からは入院が必要な状況ではなくなったようです。病院の職員からは、「生活ができる場所があれば退院はいつでもできます」との言葉をもらえました。

ふくろうから地域で困っているろう者はいないかという話をしているときにたつのこ作業所の職員から、倉ケ崎様の話が出ました。当初は奥様に入居費用についての心配があり、ふくろうへの入居を戸惑っておられました。しかし、たつのこ作業所の職員からのあと押しもあり、後見人にも費用についての説明を受けて退院に向けて気持ちを固められました。

平成29年1月12日、大矢理事長と竹原相談員とたつのこ作業所の職員、後見人、奥様とご本人が病院を訪ね本人との話し合いの場を持たれました。大矢理事長とは旧知ということもあり、お話もはずみ、ふくろうの郷への入居に前向きな意思を示されました。

それからいつでも入居できる状況でしたが、手続き上の都合もあり、同年2月1日に淡路ふくろうの郷に入居となりました。

手話でつながる生活をたのしむ

長い髭を蓄えて入所された倉ケ崎さん。入居者の方々も手話で“髭の男性”と倉ケ崎さんを表現されます。当初は気難しい方と聞いていましたすぐに仲の良くなった入居者の方とよくテレビを観ながら談笑されて過ごされています。

▲絵手紙講座にて

3月に「ふくろう理髪店」を利用された時に髭を剃られました。剃られた後、入居者の方や職員からの「若く見えるね」の言葉に、恥ずかしそうに笑顔を見せておられました。

入居者の方々との暮らしづくりの場への参加は苦手なようですが、同じユニットの方に誘われて「ちぎり絵」や「絵手紙」の講座に参加された時はとても集中して作業されます。少しずつ行事や作業等に参加して頂き、ふくろうの郷の入居者・職員と交流を深めふくろうの郷での生活を楽しんで頂きたいと思います。

▲髭を剃った後の倉ケ崎さん。楽しくおしゃべり中

ST実習生の声

私は手話ができません。ふくろうの郷では、手話が共通言語なので会話に入れず、相手の言いたいことも分からなかったことが多くありました。（中略）

会話に入れないのが寂しいと思うことはありました。それがきっと、ふくろうの郷の外での聴覚障害の方の気持ちだと思いました。（中略）

「私、手話が分かりません。ごめんなさい。」と最初に断りを入れても、すごく笑顔で自分のことを伝えて下さいます。何度も何度も、私にわかる表現で伝えようとしてくれます。相槌するとさらに喜んで続けてくれます。（話が分からないのに）適当に返事をするのは良くない事ですが、それでも私は相槌をやめませんでした。自分の話に返事がないのは寂しいだろうと思ったからです。

（関西総合リハ専門学校　上地友里佳さん）

困難な時こそ 新たな目標を見すえ 知恵をだしあって

29年度事業方針、予算案を承認

3月25日に第50回評議員会、第79回理事会が開催され、新年度に向けた事業方針や予算案について審議され承認されました。特に法人改革により理事・評議員があらたな役割をもつことになったこと、現在ふくろうの郷短期入所が休業状態にあり、職員の確保が緊急課題であることや、空き室を早期に埋めるための兵庫県聴覚障害者協会をはじめ、支援団体の組織的な連携、連絡の強化、中川原インター開通に伴う、地域住民と協働の地域づくり、今後本格化していく神戸事業「一人ぼっちゼロプロジェクト※」の4月実施について説明をし、評議員、理事から賛同を得ました。

※一人ぼっちゼロプロジェクト

神戸市内に聴覚障害に配慮した事業所はほとんどなく、「神戸市内に誰もがつどえる居場所をつくろう！」「人とのつながりをもち、安心して暮らせる福祉施設をつくりたい！」との思いではじまった事業実施に向けての取り組みです。

4月1日就任評議員

斉藤　勇（淡路聴力障害者協会会長）
朝倉　宏（前法人事務局長）
廣地　タマヘ（洲本市社会福祉協議会理事）
岩本　吉正（たつのころうあハウスサービス管理責任者）
星　百合子（兵庫県手話サークル連絡会会長）
高田　裕（淡路保険医協会会長）
山本　紋子（兵庫県聴覚障害者協会理事）
古　隆喜（兵庫県聴覚障害者協会理事）
藤井　一男（中川原町住民）
神代　俊児（中川原町住民）
荒井　美穂子（神戸ろうあ協会事務局長）
平田　幸也（大阪聴覚障害者福祉会）

3月24日就任理事

濱田　良介（中川原高齢者・障害者ふれあいセンター管理者）

4月1日就任第3者委員

小坂　淳子（大阪健康福祉短期大学名誉教授）
長塚　寿子（元ろう学校幼稚部教師）

ふくろう大学修了式

「絵手紙教室」「書道」「料理講座」等1年間にわたるふくろう大学の修了式が3月31日に行われ、入居者一人ひとりに修了賞が授与されました。またふくろう工房で働いた入居者には工賃が支払われ、みんな誇らしげに受け取っていました。

▲修了賞を手に笑顔の入居者

元気な声を聞き安心
第18回家族会開かれる

3月11日（土）ふくろうの郷で家族会総会が開かれ、平成28年度の事業報告や会計報告がありました。遠方からご家族11人に参加いただきました。入居者も13人参加し、一人ひとり自己紹介する中で、入居者は、ふくろうの郷で楽しく生活していることと、また広島さんの家族さんからは、「ここに入所し、体調もよくなり喜んでいる。介護度が3以下になれば退所しなければならなくなるのか心配」という声もあり、施設からは「特例入所があり介護度が1以上であれば入所を継続できる」と説明し、安心されておられました。

▲　ふくろうの郷設立10周年で亡き人を偲び自治会、家族会によって植樹された梅の木の前にて

平成29年度役員

会　長　濱田　純一
副会長　島原　健夫
会　計　岩橋　和樹
会計監査　吉田　誠
幹　事　久野　誠
幹　事　木邨　光正

淡路聴覚障害者センター便り

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館３階

聴覚障害者の様々な背景を知り、支援に繋げる

「聴覚障害者へのこころの支援～現場から見えてくるもの～」

3/12 洲本市健康福祉館

登録手話通訳者・要約筆記者の方々を対象に「精神保健福祉士・社会福祉士の稲淳子氏を講師にお招きし研修会を行いました。

▶同じ聴覚障害を持つものとして相談活動豊富な稲淳子氏

時間とともに悪化していく関係

家庭や教育場面では聴覚障害を理解し配慮された環境が多いが、就労場面では聴覚障害というだけでは理解されにくい状況にあります。人との関わりもなく孤独に仕事をしており、周囲もどのように関わって良いのか分からず、些細なことが積み重なり仕事にも人間関係にも自信を失い時間とともに関係が悪化し、心身ともに病んでしまう状態になる方が多いのです。そこには事業主と本人の間の何らかの行き違いがあり、お互いの話しを聞き、様々な背景や特性を知り、支援に繋げていく必要があると稲氏は話されます。

自分で知り、自分で決める

労働環境だけではなく生活における様々な場面でも、聴覚障害者が「自分で知り、自分で決める」ことを積み重ねていくことが大事と話され、通訳者として自分で決められるような情報保障のあり方をあらためて考える機会となりました。

参加された方からは「久しぶりに研修会に参加しました。色んなケースがあり、それぞれに原因があるとは思うが、今後の通訳活動に活かしたいと思う」と感想を述べられました。

「聞こえの教室」

北淡町斗ノ内浜地域におじゃましてきました

「聞こえについて」次々と質問

3/9 淡路市斗の内浜集会所で地域の高齢者を対象に開催されている、「ほっとほっと」で、「聞こえについて」お話しをさせて頂きました。

センターの事業、耳の仕組み、身体障害者手帳、福祉の制度、日常生活用具についてお話をしました。

初めに参加者にお聞きした際にはほとんどの方が聞こえるとおっしゃっていましたが、話していくうちに「夫が補聴器を購入したが、補聴器をつけると頭が痛くなるから付けていない」「歳をとると、聞こえにくくなってくるのは仕方がないと思っていた」など次々に聞こえについての疑問や思いなどを話されました。

制度についても知らないという方多数

「耳鼻科に受診の際、身体障害者手帳の申請の話はしてくれなかった。高価な補聴器を購入した」「民生委員をしているが、聴覚障害の制度を知らなかった。自分達で制度についての学習も必要とわかった」「聞こえでも手帳が取れるとは知らなかった」と制度について知らない方がたくさんおられました。

▲手作りの優しい雰囲気の「ほっとほっと」

今回は要約筆記者も同行いただき、ホワイトボードに書かれているのを見て「書くスピードが速い、こんだけ書いてくれたら助かるな」と要約筆記の存在も知っていただけたと思います。今後も各地域に訪問し、聞こえの教室を開催していく予定です。（鈴川）

平成 29 年度淡路聴覚障害者センター重点課題

- 中途失聴者難聴者やそのかかわりのある方、地域の方を対象に「聞こえ」の大切さ、保障のあり方などの啓発や支援の充実を進める。
- 聴覚障害者・児がいつでも、どこでも相談でき、集える体制作りとして３市での居場所づくりへの試み。
- 手話言語条例をきっかけにした聴覚障害者への深い理解を広げながら、地域とのつながりを促進する。

～お詫びと訂正～

第127号で掲載いたしました20周年記念大会で永年勤続者表彰されました職員に橋詰一則の名前が漏れていました。お詫びして訂正いたします。

2017 年度各事業所の活動方針

中川原スマートＩＣと連動した法人独自の「地域包括ケアシステム」構築を目指す。

① フリーマーケット開催、②ふれあい販売所、③さくら食堂の試行継続等を進めていきます。それにより個人に対しては「やりがい」「いきがい」作りを、地域全体に対しては「活性化」の一助となるよう進めます。

中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター

〒656-0002
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2
ＴＥＬ　0799-28-0990
ＦＡＸ　0799-28-0992

★居宅介護支援事業所「桜ヶ丘」

(1) 研修・学習会へ積極的に参加します。
(2) 担当者数４５名を目指します。
(3) 職種にこだわることなく地域のために何ができるのか？を念頭に置き活動していきます。
介護支援専門員業務にとどまることなく、例えばおたがいさま中川原活動への参加、各種行事等への協力を行うことでより地域純明とのつながりを図り地域ふれあいセンター全体の発展に寄与できるようにしていきます。

★淡路聴覚障害者相談支援事業所

(1) 本人が望む生活を一緒に考えていきます。
(2) 継続的に支援していきます。
１相談内容を継続して支援していき、継続的な課題解決や適切なサービスの調整を行います。
２ライフステージに応じた切れ目のない支援をしていきます。

★おのころの家・ おのころ屋

(1) 利用者の方の加齢・高齢化など、多様なニーズに合った柔軟なサービスを提供します。
(2) 事業開拓プロジェクトチームの取り組み
ふれあい販売所・福祉農業活動の拡充事業
(3) 南あわじ市及び中川原地域の休耕田をお借りしての野菜等の生産・販売を行います。
縫製品、線香の箱折り作業を行います。
食品を加工して販売に繋げるようにします。
(4) 経営・運営する焼き菓子パン製造販売の強化
季節に合わせた商品の販売･お店の特徴を生かした商品の開発を図ります。

★デイサービスセンター桜ヶ丘

ご利用者様のご希望を聞きながら、日々の取り組みの充実を検討します。中川原地域にお住まいの方をはじめ、聴覚障害に配慮し、ご利用者様同士のつながりを大切にします。
(1) 毎日、定員１４名の利用を目指し、安定的に運営できるように努めます。
(2) 利用者さんの「したいこと」を、聞きながら、取り組みの充実を考えます。
(3) 聴覚障がいの方に配慮し、ご利用者同士の関係をつなぐようにします。

共同作業所 神戸ろうあハウス

（活動目標）

今年度の重要な活動目標は、移転に向けた準備です。新規の事業拡充への取り組みはもちろんですが、移転に伴い、環境も変化し、作業の見直しも必要となります。一番大切にしなければならない利用者の思い、願いを受け止めながら、作業の検討や、利用者の心身の状況にあった事業の選択など、丁寧に検討を重ねていきたいと思います。（野村）

４/１(日)、神戸市聴覚障害者福祉施設推進委員会の決起集会にてがんばろう！コールを行った。

神戸ろうあハウスデイサービスセンター

（活動目標）

４月から神戸市の独自事業「生きがい対応」が総合事業の「一般介護予防」に変わりました。それに伴い、利用者さんの対象が６５歳以上の全高齢者に、また、要支援の方も参加できるようになりました。デイサービスの進め方、利用者さん達への支援は今まで通りです。健康体操、趣味活動、脳トレ、ゲーム、介護予防、知識学習、情報提供、昼食です。

今後は登録の基準が変わった事はもとより、まだまだ、手話で通じるデイサービスのあることを知らないろうあ高齢者も沢山おられるので、工夫と努力でもっともっと周知していかねばなりません。そして、職員、スタッフ総力挙げて、利用者さん達に楽しんで納得していただける“あんしんと安らぎの場”“自分自身を発揮でき生きがい作りのできる居場所”を目標に頑張りたいです。（眞木）

続々・地域を語る 中川原むかし話 かるた口説き

北岡　肇

NO33

ほ　星まつり　願いをこめて七夕さま

五行説による星祭は別として、ここでは「七夕さま」について書きます。

七月七日におこなわれます七夕さまは、日本にふるくから伝わっています。

棚織津女（たなばたつめ）の話と、中国につたわっています牽牛（けんぎゅう）星と織女（しょくじょ）星との伝説によるものです。

日本の棚織津女の物語は、村の災難、七難を弔い、取り除いてもらおうと機織津女が機屋（はたや）にこもって、天から降りてくる神様の一夜妻になるといったお話。また、中国の伝説は、夫婦であった牽牛と織女が、時の天の帝の機嫌をそこねて天の川をはさんで引き離されてしまい、一年に一度だけ七月七日の夜に天の川にかかる橋で会うことを許されたという伝説です。

この中国の伝説が奈良時代に伝わり日本に古くから伝わる現在の七夕（七夕まつり）が生まれたと考えられています。（飯倉時武著・日本のしきたり　より）

七月七日の七夕さまが近づいてきますと、竹ヤブから新竹（今年に竹の子がでて大きくなった笹竹。古い笹竹は使わない）を切ってきて、それぞれ願い事を短冊に書いて笹竹に結びつけて七夕飾りをします。

最近では、短冊も色とりどりでカラフルになっています。皆さんは七夕飾りをしたことがありますか。今年はぜひ家族といっしょに「七夕さま」をされてはどうでしょうか。

七月七日の翌日には、祭りに使った笹竹や飾り、お供え物など川や海に流して七夕送り・七夕流しをしてけがれを祓うしきたりとなっています。

いつも
ご支援
ありがとう
ございます

ふくろう募金が 1,141,161 円となりました。（3 月 31 日現在）

4月・5月 ふくろうの暮らし

4 月 18 日	入居者懇談会
4 月 28 日	料理講座
5 月 1 日	ふくろう理髪店
5 月 16 日	入居者懇談会
5 月 18 日	監事監査
5 月 21 日	京料理を楽しむ会
5 月 27 日	ふくろうの郷家族の会 理事会

職員募集

共感と感動をともに実践にいかしていきましょう

生活支援員・看護師
調理員・ケアマネージャー

（詳細は淡路ふくろうの郷総務部 0799-25-8550 橋詰まで）

【職員からのメッセージ】

私は介護の仕事をしています。介護は人を相手にする仕事なので難しいこともありますが、人と人とのかかわり、人としてのあり方を学ぶことができる楽しい仕事だと思います。初めは、経験も知識もなく、ちょっとした人生経験のつもりで介護の仕事を始めましたが、もう 2 年目に入りました。ふくろうの郷の聴覚障害のある入居者様とは、初めは簡単な手話しかできませんでしたが、今ではだいたいの話はできるくらいに上達しました。そして、手話を通してコミュニケーションができるようになり、ますます仕事が楽しくなっています。先輩は優しく厳しく指導してくれ、悩みも真摯に聞いて受け止めてくれるので安心して働けています。

《生活援助員　米田一真》